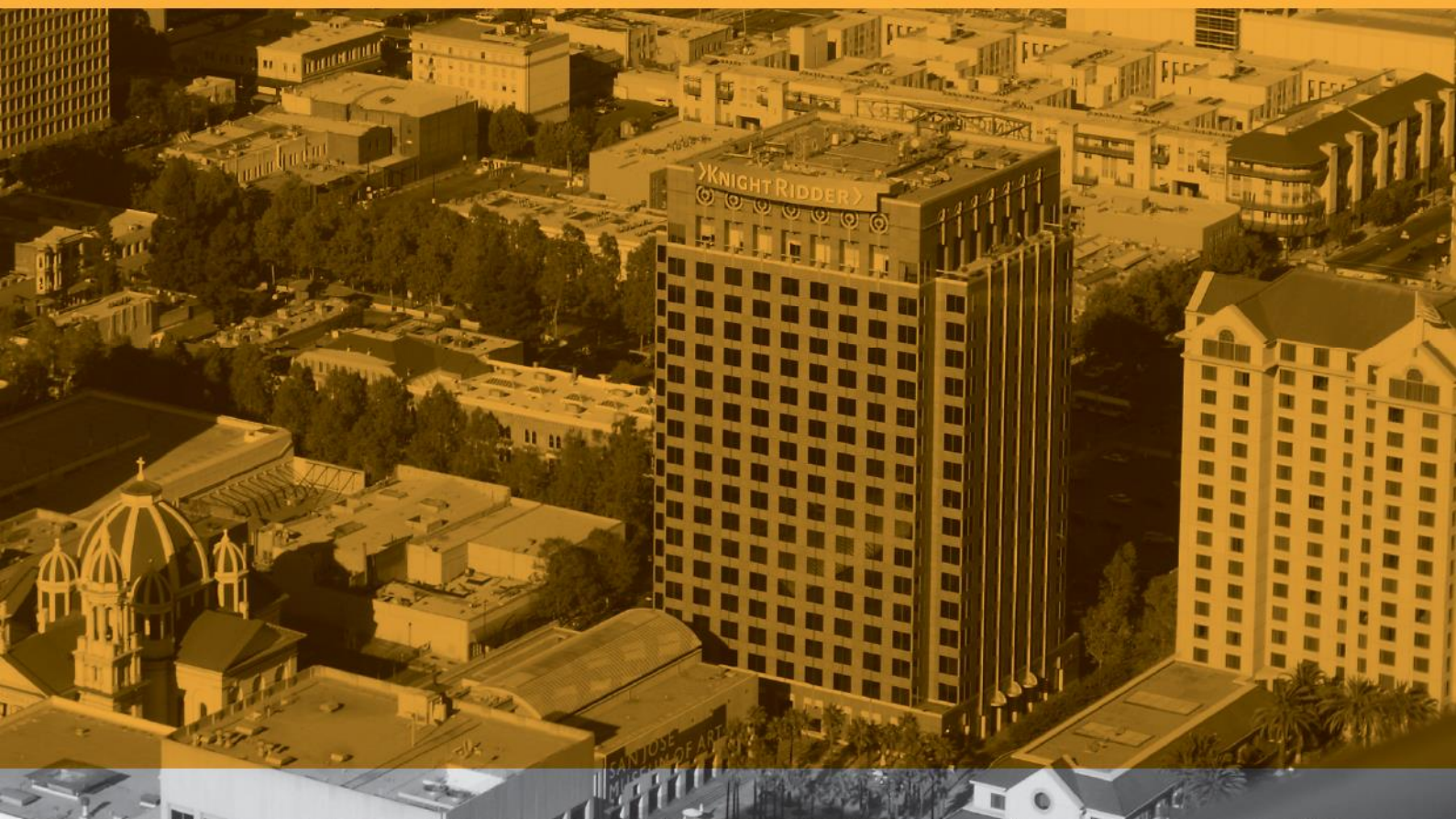


九州大学医学部 学生国際交流プログラム 米国 語学研修報告書 2014



シリコンバレー英語研修プログラム
[Silicon Valley English Study Program(SVEP)]に参加して

平成 27 年 5 月 九州大学医学部 教務委員会

目次

<はじめに>	医学部医学科・生命科学科 教務委員会委員長 北園 孝成	1
[第一部] カリフォルニアでの語学研修：シリコンバレー英語研修 (SVEP) に参加して		
	医学科1年	山中 諒／町元菜紗／落合弘貴
	医学科2年	林田仁志／窪田健之
サンノゼでの授業	山中 諒	3
フィールドトリップについて	林田仁志	4
ファイナル・プレゼンテーションに向けて	町元菜紗	5
ホームステイ	窪田健之	6
週末の過ごし方	落合弘貴	6
留学全体を振り返って	落合弘貴	8
留学全体を振り返って	町元菜紗	8
留学全体を通して	山中 諒	9
留学全体を振り返って	窪田健之	11
留学全体を通して	林田仁志	11
<写真のページ>		13
[第二部] 留学に対する感想他 (英語版)		
		17
英語によるプレゼンテーションの概要とスライド資料		25
[第三部] 平成 25 年度 シリコンバレー英語研修プログラム		
	九州大学医学部同窓会誌「学士鍋」第 170 号から	39
<英文原稿を通じて>	世話教員 高橋富美	45
<あとがき>	世話教員 續 輝久	45

はじめに

シリコンバレー英語研修プログラム（SVEP）は、九州大学国際部ならびにカリフォルニアオフィスが主催する語学研修プログラムであり、平成 21 年から協定校であるサンノゼ州立大学アメリカ英語研究所を受け入れ機関としてスタートしました。医学部医学科・生命科学科でも平成 21 年から本プログラムに参加してきました。平成 25 年度までに 26 名の学生が参加してきており、平成 26 年度も医学科学生 5 名（1 年生 3 名、2 年生 2 名）が参加して有意義な留学生活を送りました。

この度、例年通りに参加学生の体験談や感想を「報告書」としてまとめました。4 週間という短い期間ではありましたが、参加した学生は日本ではできない多くの貴重な経験をすることができたようです。SVEP は国際的な視野と問題解決能力を持って世界に羽ばたく人材を育成することを目的としています。参加した学生が、今回の経験を糧に世界を舞台に大いに飛躍することを期待します。

最後になりますが、サンノゼ州立大学やご協力いただいた各企業の皆様、カリフォルニアオフィス松尾所長など関係の皆様、そして、本プログラムのスタート時からご尽力いただいている續 輝久教授に深謝いたします。

教務委員会委員長 北園孝成

サンノゼでの授業

医学科1年 山中 諒

サンノゼに1か月間留学している間に、様々な形式の英語の授業がありました。基本的に英語の授業は、留学している人たちだけでサンノゼ州立大学に隣接した IGateways の建物で専任の先生に教えてもらうという形です。座学形式の授業は午前か午後のどちらかであり、1日110分の授業を2コマ受講しました。授業の内容は大きく分けて4つあり、それぞれ、“Current Events”、“Presentation”、“Accent Training”、“Listening”と分類されています。どの授業も普段ではあまり受けることができるものではなくとても刺激的でためになりました。まず、“Current Events”とは、最近問題となっている出来事について英語で自分の意見を言うていくというものです。実際に取り上げられた話題としては、「野々村議員の号泣記者会見についてどう思うか」、「アイスバケツリレーはすべきかどうか」などといったことを英語で話しました。今までにこのような話題を英語で論じたことがなかったため、初めはほとんど自分の意見を言うことができませんでしたが、失敗を恐れずにどんどん意見を言うように努力することで、少しずつではありますが自分が思っていることを相手に伝えることができるようになりました。“Presentation”は、その名の通り英語でのプレゼンテーションの仕方を学ぶというものです。ただ、プレゼンテーションの仕方を学ぶだけではなく、どのようにしたら聴衆の興味を引くことができるプレゼンテーションができるかについても学びました。実際に、アップル創始者であるスティーブジョブズのプレゼンテーションのビデオを見たりしました。授業中に私も何度か英語でプレゼンテーションをしましたが、納得のいくものができたと思います。また、将来英語でプレゼンテーションをしたいとも思うようになりました。“Accent Training”は、どのようにしたら、ネイティブ・スピーカーのように発音することができるかについて学びました。これまでに考えたこともなかったような発音に関する様々なことを教えてもらい、少し発音を改善できるようになったと思います。発音に関する理解が進んだことで聞き取るコツがつかめたのだと思いますが、最後の授業では、ハリーポッターの映画の一部分を英語で見て、少し聞き取れるようになっていて驚きました。発音練習をすることによってリスニング力も向上すると感じました。発音練習は日本でもできると思うので、これからも練習を継続してさらに発音を改善していきたいと思います。“Listening”は、これまたその名の通りリスニング力を鍛えるためのものです。この授業では実際に米国のABCや英国のBBCなどのニュースを視聴しました。ニュースの内容としては、「グーグルバス問題」や「シリコンバレー」などがありました。ニュースはとても早口なのでほとんど理解すること

ができませんでした。それでも、ホームステイの家にいる間にニュースを見るなどして普段から接する機会を増やすようにしていたら、全部は聞き取れないながらも断片的には少しずつ聞き取れてきました。聞き取れた時はとても感動しました。また、それぞれの授業の初めには、“Show and Tell”という英語のスピーチをしました。これは全部で5回経験しましたが、すればする分だけ上達しました。

サンノゼに留学している1か月は毎日英語漬けでとても大変だったのですが、その分英語で話したり、英語を聞いたりすることに抵抗がなくなりました。英語は使えば使うほど上達するものだと思身をもって体験したので、これからはこの留学が無駄にならないよう普段から英語をしっかり勉強して使える場面では積極的に使っていきたいと思えます。

フィールドトリップについて

医学科2年 林田仁志

SVEP の研修ではフィールドトリップの枠組みで、シリコンバレーにある様々な分野の職場を見学させていただいた。シリコンバレーの名が示すイメージ通りの、HP（ヒューレットパカード）社や TRIPLERING 社といったエンジニア系の会社を訪問した。昨年 SVEP 研修に参加した同級生の話を聞いていたこともあり、自分自身最も期待していた、かつ最も印象に残ったのは Intuitive Surgical 社の見学である。この会社では先日 TV でも紹介されていた、手術支援ロボット da Vinci を開発しており、九州大学病院にも2台設置されている。今回の訪問では、実際にそのロボットを使って操作させていただいた。その感想としては、まるで自分の手を動かしていると錯覚するくらい、思ったとおりに機械を動かせた事である。勿論自分は未だ外科手術の訓練を受けておらず奥行きをはかるのが難しかったが、この機械を学生の中に触れる事ができたのは将来のモチベーションになった。企業の説明を通じて、デバイス挿入のために手術時に患者にあける穴の数を減らすなど、患者視点で da Vinci を改良していく姿勢がみてとることができた。

このように SVEP の中で医学部生に対して企画面でご配慮いただいた、CA オフィスの方々には素晴らしい経験になったことを心から感謝したい。まだ何科に進むか決めていないが、それを考える上では非常に大きな影響を与えるものになったと思っている。

ファイナル・プレゼンテーションに向けて

医学科1年 町元菜紗

4週目に SVEP での英語研修の成果報告として 45 人全員がファイナル・プレゼンテーションを行いました。テーマは SVEP の中で学んだこと、考えたことなど「自分が伝えたいこと」というもので、どのプレゼンテーションもテーマや構成、スライドに一人ひとりの工夫が見られてとても良いものだったと思います。

私は、日本語でのプレゼンテーションも得意な方ではなく、授業で初めて「Show & Tell」という短いプレゼンテーションをした時には緊張で頭が真っ白になり、Q & A も全然うまく受け答えができていなかったのが、実際不安でいっぱいでした。まず、テーマを決めるのにとても悩みましたが、SVEP に参加した後の自分だからこそできるプレゼンテーションをしたいと思い、私の名前が日本人にもアメリカ人にも驚かれる珍しいものであることから、「名前の付け方」というテーマに決めました。それからホストマザーや先生方から情報を集め、構成を何度も変えながらスライドを作成して、英語での発表原稿が出来上がったのは当日の朝でした。本番はやはり緊張したのですが、自分のベストを尽くすことができ、1 か月間英語を使って生活し、授業を受けてきた成果を出すことができたと思うので本当に良かったです。私以外の人のプレゼンの完成度もすごく高かったのが、私の発表が Marty Prize* をいただけると知った時には、本当にうれしく、また自信にもなり、もっと英語を使えるようになりたいと強く思いました。今回、ファイナル・プレゼンテーションに向けて自分の納得できるものをつくるために準備し、本番を無事にやりきったことで、確実に成長できたと思います。相談に乗ってくださった九大カリフォルニアオフィスの佐藤さん、池見さん、テーマに関して質問に答えてくれて一つ一つ丁寧に説明してくれ、さらに私の考えを肯定して自信を持つようにと何度も背中を押してくれたホストマザーの Rachel、リハーサルを通してより自然な英語になるように訂正してくれたホストファミリーのメンバー、いろいろなアドバイスをしてくれたり、応援してくれたりしたルームメイトをはじめとする友人たち、そして私の成長を認めてくださった九大カリフォルニアオフィス所長の松尾さん。本当に皆さんに感謝しています。ありがとうございました。

[* : 九大カリフォルニアオフィスの松尾正人所長の愛称 Marty に因む賞]

ホームステイ

医学科 2 年 窪田健之

今回の留学では様々な人たちとの交流がありましたが、最も深く関わり、お世話になったのがホストファミリーでした。留学前から電子メールで連絡をとってはいましたが、約 1 ヶ月も慣れない異国の生活をともにすることから、不安でいっぱい留学初日に対面したのを覚えています。しかし、ホストファミリーの Joshua、Lindsey が笑顔で迎えてくれ、不安が一気に吹っ飛びそれからの生活への期待に変わっていました。

Joshua、Lindsey は二人とも仕事を持っていましたが、夕食は必ず私たちと一緒に食べられるようにと時間を合わせて帰ってきてくれ、その日の私たちの出来事を色々と聞いてくれました。このことがあったおかげで英語を話し、聞く機会が増えましたし、異文化の考え方などもこのような場面を通してたくさん学ぶこともできました。逆に日本のことについて尋ねられることもあり、こんなことに興味があるのかといった驚きや日本に関する事なのになんか知らないことばかりだという反省をすることも多々ありました。この SVEP で唯一残念だったのはホストファミリーと過ごす週末が 1 回しかなかったことでした。それでも、2 人は私たちが楽しみつつ、アメリカの文化を体験できることを考えてくれ、教会での礼拝、Joshua の家族との交流、サーフィンなどひとつひとつがとても印象深いものになりました。

初めてのホームステイは生活習慣や考え方の違いから不満に思うこともありました。それが今となっては大したことではなかったものと思えるほど毎日が充実した濃い生活を送ることができました。食卓でも、移動中の車でも話しかけてくれ熱心に私たちの話を聞いてくれた 2 人の笑顔が印象に残っています。そのような環境を提供してくれた Joshua、Lindsey には感謝していますし、この出会いを大切にそしてさらに深いものにしていきたいと思っています。

週末の過ごし方

医学科 1 年 落合弘貴

今回の SVEP の 4 週間で、計 3 回の週末を過ごしました。以下に、この 3 回の週末をどのように過ごしたか等を簡単に紹介したいと思います。

最初の週末では、申し込んでいた 2 泊 3 日の LA ツアーに行きました。LA ツアーの初日は、ビバリーヒルズやハリウッドを回り、その後ディズニーランド近くのホテルに到着し、ディズニーダウンタウンを回りました。二日目は、ディズニーランドを満喫。特に、LA のディズニーランド限定のジェットコースター、カリフォルニア・スクリーミ

ンは最高でした。最終日は、ホテルを出発しサンノゼへと帰る道中にあるサンタバーバラの町を歩いて見て回り、バスで帰りました。サンタバーバラはスペイン風の建物が点在するとてもおしゃれな街で、美しい景色と街並みは歩いているだけでも楽しかったです。このツアーには SVEP 参加者のほとんどが参加していたので、さらに親交を深めるいい機会になりました。

次の週末は、特に予定を入れてなかったのですがホストファミリーとサンフランシスコを観光しました。サンフランシスコは、「地球の歩き方」等の旅行ガイドにも紹介されているようにたくさんの観光スポットがあって、ゴールデンゲートブリッジ、フィッシャーマンズワーフ、ロンバートストリート、ディズニーファミリーミュージアム、刑務所で有名なアルカトラズ島など、どれも外せないマストスポットです。他の参加者も、ホストファミリーと過ごしたり、現地の大学生と遊びに行ったり、それぞれ自由な週末を過ごしていました。

最後の週末は、これも申し込んでいたヨセミテ国立公園ツアーに行きました。このツアーには参加学生全員が参加しました。ヨセミテの自然の雄大さには圧倒されるばかりでした。アメリカでの生活の中でも、このツアーでの経験は、留学メンバー共通の良い思い出になりました。

平日も色々楽しめます。僕は授業が終わった後、大リーグのサンフランシスコジャイアンツの試合を観に行ったりしました。観戦した現地時間9月10日の試合では、サンフランシスコジャイアンツがダイヤモンドボックスに、5対0で快勝しました。SFジャイアンツの本拠地 AT & T Park で観戦したのですが、球場は福岡のヤフオクドームよりもオシャレで、臨場感もあり、野球好きの僕はかなり興奮しました。他にも、サンノゼにたまたま来ていたブロードウェイのミュージカルを観に行ったり科学博物館的なところに行ったりしている人もいました。毎日の昼食も、大学周辺の美味しいお店を回るのがすごく楽しかったです。色々な種類の食べ物があり、ハンバーガーやピザはもちろんのこと、メキシコ料理や、中華料理、インド料理など、どれも美味しいものばかりです。アメリカは料理が美味しくないと思っていたので、正直美味しさに驚きました。機会があれば皆さんにもぜひ色々な店へ回ってみて欲しいと思いました。

留学全体を振り返って

医学科 1 年 落合弘貴

私がこの留学に応募した理由は、主に英語力の向上にありました。

この英語力の向上については、本当にたくさんの収穫がありました。現地での授業はすべて英語でおこなわれ、ディスカッション形式であったので退屈せず、とても有意義でした。また、現地の大学生との交流もあり、独特のノリや若者言葉を教えてもらったりしてすごく勉強になりました。ホストファミリーのメンバーは、アメリカでの生活で気になったことなどを質問すると丁寧に教えてくださったので、チップについてやドギーバッグについてなどのアメリカの文化について多く知ることができました。こうして様々な人たちと会話することで、英語を話すことに対する抵抗も日を経るごとに次第になくなっていきました。一方で、そういった英語に囲まれた生活を送るなかで自分の英語力の無さを痛感しました。このプログラムの最終日に近づくにつれて、自分の英語力は以前より格段に上がったと思います。しかし本当の意味で英語を話せるようになるためには、これからもっともっと鍛えていかなければならないと思いました。

そして今、留学を終えた後も SVEP でともに勉強した仲間とは交流が続いています。彼らはみんな志が高く、会うたびとても良い刺激になっています。私自身も、シリコンバレーで世界規模のイノベーションを起こしている多くの企業を訪問する中で、自分の視野が広くなり、高い志を持てるようになりました。これからも、SVEP の仲間とは、切磋琢磨し刺激し合える関係であり続けたいです。最後に、この夏休みは今までで最高に充実したものとなりました。これからの大学生活や仕事において、この高い志を持ち続けて頑張っていきたいと思います。

留学全体を振り返って

医学科 1 年 町元菜紗

私が今回 SVEP に参加した目的は、英語力を向上させること、コミュニケーション力を向上させること、視野を広げることの 3 つでした。SVEP は私にとって初めての海外留学ということもあり、英語でのコミュニケーションや文化の違いなどを実際に経験するのは初めてで、不安もありましたが、SVEP に参加して今の自分に足りないものを知ること、これからの自分の目標となるものを見つけ、向上心を持って生活をおくるためのきっかけにしたいと考えていました。

4週間の留学を終えて、この3つのことについて実際に自分に変化が起きていることを感じました。英語力については、もっと勉強や経験を積んで高めていく必要があるということを強く実感しました。ホストファミリーと対面した時の半分も聞き取れないという衝撃と焦りは、今でも忘れられません。アメリカ人の学生や先生と話したり、店で注文したりする時など、もっと自分の言いたいことをスムーズに伝えられたら良いのと思うことも何度もありました。それでも、4週間英語を使う生活を続けることで、英語を話すことに対する抵抗感がずいぶん小さくなりました。この経験を基に、帰国後も実践的な英語の勉強を続け、大学生の間に英語をコミュニケーションツールとして使える力をつけたいと思っています。コミュニケーション力については、アメリカという新しい環境で初対面の人々と生活していく中で、積極的に人と関わることができるようになりましたが、これにはアメリカ人のコミュニケーションの仕方に影響を受けた部分も大きかったと思います。アメリカの人々は初対面の外国人である私たちに対しても、とてもフランクに話しかけてきて、一人ひとりが自分の考えをしっかりと持っていることも感じられました。アメリカ人の学生と話す中で、彼らが自分の興味のあるものを持っており、それも一つではなく、それに対してすごく熱心に取り組んでいる印象を受けました。この姿勢を私も見習いたいと感じました。SVEPに参加して、食べものや交通機関から街の様子、人々の生活習慣、考え方まで日本とは異なる環境で4週間過ごす中で、視野についても格段に広がったと思います。アメリカは様々な文化、国籍を持つ人が集まる「合衆」国です。本当にいろんな人が他人を気にせずに自分のやりたいことをやっているという空気を持つ場所で、「自分とは異なる考えを持つ人がいて、その人の考えに耳を傾けることで、今までとは違う見方ができるようになる」ということを経験として学ぶことができました。

アメリカという初めての場所に行って知らないことを単に知ったという以上に、たくさんのことを考え、またたくさんのことを学ぶことができた4週間であったと思います。SVEPに参加する前と後とでは、価値観も視野も世界観も大きく変わりました。この留学で感じたことを心にとどめ、一緒に参加した仲間や現地の学生との出会いも大切にしていって、これからいろいろなことを学び成長し続ける原動力にしようと思います。

留学全体を通して

医学科1年 山中 諒

僕が今回 SVEP に参加した理由は、語学力の向上と、海外でまだ自分が見たこともな

い文化を体験したいと思ったからでした。留学を申し込んで、実際行くことができるようになったときはとてもワクワクしていましたが、アメリカに行く1週間前になる頃には、本当にアメリカで1か月間暮らしていけるのか、自分が思っていることを英語で伝えることができるのだろうか、など不安がいっぱいでした。

しかし、実際にアメリカに行って生活してみると毎日が刺激的でとても充実していました。アメリカの生活は、平日は午前中か午後には授業があり、授業がない時は現地のサンノゼ大学の学生と英会話をしたり、サンノゼ大学で催される様々なイベントに参加したりしました。授業は発音、リスニング、英語での議論の仕方、など様々なことを学びました。そして学んだことを生かして最終日に自分で決めたテーマで5分間のプレゼンテーションをしました。僕は「アメリカ人と日本人の違い」について発表しました。プレゼンテーションのテーマを決めるのにとっても苦労しましたが、留学をふりかえってみて、このことがとても印象に残ったのでこのテーマにしました。サンノゼ大学のイベントとしては「コーヒーナイト」というものに参加しました。これは夜にたくさんの学生が集まって、おしゃべりをしたり踊ったり、ほかにも様々なことをして遊ぶものです。ここで現地の人とたくさんコミュニケーションをとることができました。現地の学生の英語は早口で何と言っているのかあまりわからなかったけれど、お互いにジェスチャーを用いてコミュニケーションをとることができました。この時、自分から積極的に話しかけることの重要性を学びました。現地の学生は知らない人にも積極的に話しかけていて驚きました。この対話における積極性は日本人とアメリカ人の大きな違いだと思いました。週末は授業がないのでディズニーランド、ヨセミテ国立公園、サンフランシスコ、ショッピングモール、アメリカの遊園地などいろいろな所に行きました。どこも日本とは一味違ってアメリカの文化を十分に満喫することができました。ホストファミリーとの生活もとても充実したものでした。僕のホストマザー (Imelda Joanani) とホストファザー (Reynaldo Joanani) はともに退職していたため、長い時間一緒に過ごすことができました。はじめの一週間はなかなかホストファミリーが言っていることが聴きとれなくて大変でしたが、徐々に慣れて聞き取れるようになってきた時はとても感動しました。毎日のホストファミリーとの何気ない会話がとても楽しかったし、僕の英語力の向上にとっても役に立ちました。Imelda が作ってくれる料理はとてもおいしくて毎日おなかいっぱいになるまで食べました。最終日にホストファミリーと別れる時に「あなたは私たちの家族の一員だ」と Reynaldo が言ってくれてとてもうれしかったです。

この SVEP の1か月は毎日が充実していて英語力向上のほかにも人生の素晴らしい経験になったし、何より楽しかったです。この留学で学んだことを生かしてこれからの日々の生活を送っていきたいです。そしてまた機会があれば留学してみたいです。

留学全体を振り返って

医学科 2年 窪田健之

今回、私は英語力向上のためにこの SVEP に参加しました。英語を苦手と感じている私でも、英語によるコミュニケーションしか選択肢にない状況であれば、自分の英語に対する考えが変えられると思ったからです。実際、この留学で英語に対する苦手意識は小さくなりましたし、リスニング力についてはホストファミリーからも「聞きとれるようになったね」と言ってもらえました。しかし残念ながら、スピーキング力はまだ足りないことを実感しました。

さらに SVEP を終えて私は英語力向上だけでなく、自分の考えの幅を広げる異文化に対する理解や世界基準での考えに触れることができました。それは、毎日の英語の授業やホストファミリーとの交流などアメリカでの生活のひとつひとつから感じることでした。また、このプログラムでは特別授業があり、シリコンバレーの企業訪問やそこで活躍する日本人の方々に講演をしていただく機会があり、世界の最前線で働き、挑戦をしていく上で大切な世界スタンダードについて知り、最先端の医療機器を体験することなどもできました。

最も私が留学を通して感じたことは多くの人たちと出会ったことによる様々なインパクトです。一緒に研修やツアーに参加した同じ九州大学の他学部の友人たちはもちろん、ホストファミリー、現地のスタッフや学生、多くの人と普段語ることのないようなことを語り、気付かされ、考えさせられました。この留学で得た全てのもの、つながりをこれからの日本での生活でも大切に自分の中でイノベーションを起こし続けていこうと思います。

留学全体を通して

医学科 2年 林田仁志

留学前ただ漠然と、受験勉強で培ったものとは違う、生きた英語を学びたいと思って参加したものの、実際行って見て英語以外に学んだ事が沢山あった。

まず、英語についてである。SVEP の授業自体は IGateways という建物で行われたのだが、そこでは勿論、英語の様々な部分を学べたが、学校外のレストランやホームステイ先でしっかりコミュニケーションをとるという経験は貴重だった。ある程度のレベルの会話だったら、簡潔な単語やジェスチャーで何とかなるといえるのを感じるのと同時に、しっかり現地の人と流暢に英語で交流するのは難しいと思った。それでも現地の学生に

積極的に英語で話しかけたり、ホストマザーと英語で会話していくうちに英語力の向上を実感できた。この成長自体はこの研修のように実際に英語圏で一定期間滞在しなければ得られないものであろう。その意味では非常に良かった。

次に自分の視野が広まったという事である。シリコンバレーのフィールドトリップでエンジニア系の会社を見学させてもらって、どのように成功したのか、ここで生きていく為の要諦は何なのかなど、自分と違った分野の人々のノウハウを知る事ができ自分の専攻に活かしていきたいと感じた。また、その意味でこの研修には九州大学の様々な学部の志が高い学生が参加しており、この1ヶ月で多くの学生と将来の話やそれぞれの考え方など話す機会があった事は、普段同じ学科の人しか交流がない自分にとっては、大変貴重な経験になった。

今回、夏休みの1ヶ月で大きく変わったと実感できたことから、改めてこのプログラムに参加して良かったと思う。是非、この経験を今後の人生に活かしていきたい。

英語クラスA (Kristjan 先生と)



英語クラスB (John 先生と)



英語クラスC (Rachel 先生と)



San Jose 州立大学の風景



San Jose 州立大学 (Student service center 前)



授業風景



Final Presentation の様子

落合君



林田君

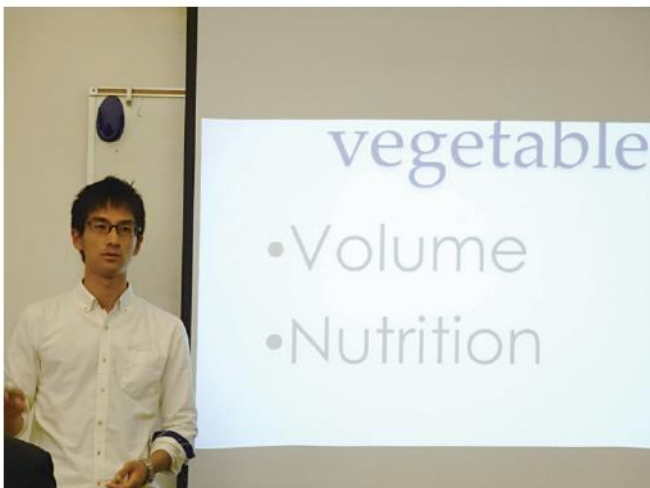


Marty 賞受賞
おめでとう！



町元さんと
松尾所長

窪田君



山中君



フィールドトリップ：インテル



フィールドトリップ：Triple Ringでのワークショップ



フィールドトリップ：Intuitive Surgical



フィールドトリップ：スタンフォード大学



手術支援ロボット ダ・ビンチ操作中



フィールドトリップ：スタンフォード大学



ホストファミリーと



ホストファミリーと



現地の学生と交流パーティー



ディズニーランド



ヨセミテ国立公園



誕生日会兼歓送会



Field Trip

2nd grade, Department of Medicine, School of Medicine
Hitoshi Hayashida

I visited various companies in Silicon Valley during my field trip. Among them were engineering companies such as HP and TRIPLER, which are famous in Silicon Valley. I was particularly looking forward to my visit to Intuitive Surgical because I had heard about it from classmates who participated in SVEP last year. It is a very impressive company. Intuitive Surgical developed the *da Vinci* Surgical System, which uses a robotic platform to assist doctors in surgery. I had seen it on TV, and Kyushu University Hospital has two of these machines. Through my participation in SVEP, I had the opportunity to personally experience manipulating the *da Vinci* robot; it felt as if I was using my own hands. Of course, it was difficult for me to use the machine with precision, but the experience was very valuable and rewarding. Intuitive Surgical was the most interesting company I visited during the field trip.

Preparation for the Final Presentation

1st grade, Department of Medicine, School of Medicine
Nasa Machimoto

In the fourth week of the SVEP program, all 45 students made presentations to report their progress with their English skills. The subject of the presentation was to be “something you want to tell the others,” for example, what you learned through SVEP, or what you thought about in SVEP. Every student made an original presentation on a particular subject or personal experience. Some had designed slides to accompany the presentation. All the presentations were very good.

I was worried about my final presentation because I am not good at making presentations in public, even in Japanese. When I was young, I was too nervous to answer even the simplest question during my first (brief) presentation in “show and tell.”

First, I wondered what I should talk about. Eventually, I chose the subject: “how to decide a baby’s name,” because my name, “Nasa,” is uncommon and surprises people in both Japan and America. I gathered information from my host mother and teachers, made revisions to the presentation, and created slides to accompany it. I finished the notes for the slides on the morning of the day of the presentations. During my presentation I was still nervous but I did my best

to show the results of the English classes I took in SVEP.

I was very surprised to receive the Marty Prize for my presentation. Other students made high quality presentations and I thought it would be difficult to win the prize. Receiving the Marty Prize not only made me happy but also gave me confidence. I really wanted to improve my English skills. I think I have grown a lot in the SVEP program, certainly enough to prepare my presentation, and I am satisfied with it.

I want to thank Mr. Sato and Mr. Ikemi for their generous advice, and thank my host mother, Rachel, for answering questions, giving me detailed explanations about things, affirming my ideas, and encouraging me (many times) to have confidence. Thanks also go to my host family for helping me rehearse my English presentation to make it sound more natural. Thanks to my friends, including my roommate, for giving me advice and cheering me up. Thanks also go to the Chief of the California Office of Kyushu University, Mr. Matsuo, for recognizing my growth. I am deeply grateful to everyone who supported me. Thank you.

Homestay

2nd grade, Department of Medicine, School of Medicine
Takeshi Kubota

Although I met many people while participating in the SVEP program, I would like to express special thanks to my host family. Before going to the United States (US), I contacted them by email. Even so, I was feeling uneasy until I met them on the first day; I had been apprehensive about traveling to a foreign country and living for a month with people I had never met. However, when the host family, Joshua and Lindsey, welcomed me with big smiles, my uneasiness went away and I was able to enjoy life in the US.

Both Joshua and Lindsey worked during the day, but they were always home for dinner with me, and they listened as I told them about the things that happened that day. It was an excellent opportunity to practice speaking English and to listen to English conversation. During these conversations I could feel the differences in our ways of thinking that characterize our different cultures.

They sometimes asked me questions about Japan. Some of the questions were new to me or difficult for me to answer. I realized, sadly, that I did not have enough knowledge about my own country. I decided to study about Japan and Japanese culture so I would be better prepared to answer the questions people asked.

Unfortunately, I had just one weekend to spend with my host family, but they made wonderful plans for me that weekend. Overall, it was a great opportunity to learn about and experience American culture; I really enjoyed it.

Whereas there were many things I complained about when I stayed with my host family in the US, the experience was very valuable and enjoyable. The smiles of Joshua and Lindsey were unforgettable. I would like to express my special thanks to Joshua and Lindsey and I would like to keep in touch with them in the future.

Weekends in SVEP

1st grade, Department of Medicine, School of Medicine
Hiroki Ochiai

SVEP was a 4-week program that included 3 weekends. I want to tell you about how we spent the weekends during the program.

On the first weekend, I joined the Los Angeles (LA) tour for three days. On the first day, we traveled around Beverly Hills and Hollywood. Then, we arrived at a hotel near Disneyland and went around Disney Downtown. We spent the second day at Disneyland. The roller coaster, "California Screaming," was very exciting. It is found only at the LA Disneyland. On the last day, we departed the hotel, went sightseeing in Santa Barbara—which is on the way from LA to San Jose, California—and came back to San Jose by bus. Santa Barbara is famous for its Spanish buildings. We enjoyed the town very much, just walking around and seeing the stylish streets. Most of the SVEP participants came on this tour so it was a great opportunity to deepen our friendships.

On the second weekend, I had no schedule planned so I visited San Francisco with my roommate and host family. According to guide books like the "Globe-Trotter Tour Guide Book," San Francisco has many tourist spots, including the Golden Gate Bridge, Fisherman's Wharf, Lombard Street, Disney Family Museum, and Alcatraz Island (which is famous for its prison). You should visit all of them. The other participants enjoyed the weekend in their own way, i. e. play sports with the SJSU students.

On the third weekend, I went on the tour of Yosemite National Park. All the SVEP participants went on this trip. I felt overwhelmed by the magnificent natural beauty of the park. We all agreed that this tour was one of our best memories.

The weekdays were also enjoyable. For instance, I went to AT&T Park to see a baseball game on September 10th after the English class. The San Francisco Giants

won the game 5-0 over the Diamond Backs. AT&T Park, the home field of the Giants, is very stylish and has a definite "presence." It is a very exciting place for a baseball fan like me. Other participants sought out things such as a musical that came to San Jose, and the science museum. I enjoyed lunch around the SJSU every day. Additionally, there were many kinds of delicious ethnic foods available, such as Mexican food, Chinese food, and Indian food, as well as American food like hamburgers and pizza. I had heard rumors that food in America tasted bad, so I was surprised that I found it to be good. You should visit the many kinds of restaurants, if you have time.

After the SVEP Program

1st grade, Department of Medicine, School of Medicine
Hiroki Ochiai

Improving my English skills was the main reason I applied for the SVEP program of short-term study abroad.

I learned many things about the English language in America. Classes were conducted in the form of an English discussion, so it was an exciting and meaningful time for me. It was also beneficial because I was able to interact with the SJSU students and learn common English expressions and slang. My host family helped me with my English and very kindly taught me many things about American culture. For examples, "tips" and "doggie bags" which do not exist in Japanese culture. I learned important tips such as the function of "doggie bags." I talked with many people in English and my hesitation to speak in English gradually went away. However, I felt strongly that my English skills were inadequate for my stay in America. My skills improved during the program, but I feel I need to work harder so I will be able to speak English fluently.

SVEP members keep in touch with each other. Communicating with them has had a positive influence on me because they have high ambitions and I am motivated every time I meet them. The program enabled me to broaden my horizons and it was very exciting to visit the successful companies in Silicon Valley (California) that are involved in innovations worldwide. I want to maintain good relationships with SVEP members and compete with them in the future that look bright for us all. This summer was a fruitful experience for me. I plan to work hard during the rest of my university life and wish to keep this ambition through my life.

My Change in SVEP

1st grade, Department of Medicine, School of Medicine

Nasa Machimoto

I participated in the SVEP program for three reasons: first, to improve my English skills, second, to improve my communication skills, and third, to broaden my horizons. Because SVEP was my first opportunity to study abroad, I was worried about communicating with people in English and living in a different culture. However, I felt it was a chance for me to assess my weak points and to work on improving myself to reach my future goals.

After four weeks of SVEP, I realized that I had changed in all three areas. However, while my English skills had improved, I still needed more study and experience to become fluent. I was surprised and a little anxious about this; for example, when I met my host family for the first time I could understand less than half of the English conversation. In addition, it was difficult for me to communicate what I was thinking, even when I was just ordering a hamburger for lunch. Because of my difficulty speaking English during the program, I want to keep studying English as a student and increase my communication skills.

Regarding my communication skills, I found I was able to communicate better with people because of the experience of living in the United States (US) with people I had never met before. I think I was influenced by the way Americans communicate. They talk very frankly, even when meeting foreigners like me for the first time. Moreover, when I talked to American students, I found that they were interested in many things and worked hard to achieve them, so they had many topics to talk about. I felt that I could learn from them and their positive attitudes.

As for my vision about the future, I had a much broader vision after spending four weeks in a country so different from Japan. Things I noticed that struck me as different included such things as food, transportation, life in the suburbs and rural areas, lifestyles, and ways of thinking. The US is a country where people come from different national backgrounds and maintain different cultural traditions. It has an open atmosphere that allows people do what they want, without worrying about what others think or say. I had experiences with different people and cultures in America and I learned that people may have different ideas from myself, and that is OK. This helped me to see the world in new ways.

In the four weeks of the program, I not only learned new things and ideas of a different culture, I also did a lot of thinking and planning for the future. Through SVEP, my values and world view have changed. I will keep this experience

in my mind, and I hope to stay in touch with friends I met through the program. I will continue to learn and grow, becoming a better, more mature person.

SVEP

1st grade, Department of Medicine, School of Medicine
Ryo Yamanaka

The reason I joined the SVEP program was to learn English and have the experience of studying the English language among native speakers. When my proposal was accepted, I was very excited. However, I became nervous a week before departure because I was worried about living in the United States for a month and I was unsure about my English skills.

After I arrived, I found that every day was exiting and valuable to me. I had a class on weekday mornings, and when there was no class, I talked with a student at San Jose University and participated in various activities at the University. I joined the English class on pronunciation; it was helpful listening to the sounds of the language and the flow of the conversation. On the last day of class, I gave a 5-minute presentation. The theme of my presentation was “The difference between Japanese people and American people.” It was very difficult for me to decide on a theme.

I joined an event at the school called “coffee night.” On this occasion, many students gathered in the evening for conversation, dancing, and coffee. I was pleased that I was able to communicate with many of the local students at the event. While I could not understand exactly what the students were taking about (because they spoke so quickly), I was able to communicate with them through gestures and body language. It was intense and I learned from this experience the importance of maintaining a positive attitude. I was surprised that the American students did not hesitate to talk to people they had never met before, like me.

On the weekend, I went to Disneyland, Yosemite National Park, San Francisco, a shopping mall, and an amusement park. Every place I went was different from Japan; I was able to enjoy American culture to the fullest. Additionally, I really enjoyed staying with my host family. My host mother and father were retired so they could sit down with me and have a very nice long chat. At the beginning, I had difficulty understanding what my host family was saying, but gradually, I got used to their way of speaking English and I was able to understand them. The chats with the host family were a lot of fun and were really helpful for improving my English

communication skills. The food my host mother made was delicious and I ate a lot of it.

During my stay in the US, every day was valuable and the one-month SVEP program greatly improved my English skills. The experience was memorable in my life and will help me in many ways in the future. I want to study abroad again if I have the chance.

SVEP

2nd grade, Department of Medicine, School of Medicine
Takeshi Kubota

I participated in the SVEP program to improve my English skills. I did not like English as subject in school but I thought I would become more fluent if I spent time in an English-speaking country like the United States. In fact, the SVEP program did improve my English skills; my host mother even told me that my listening skills (understanding English) improved during my visit. However, I realize that I still need more study to improve my speaking skills.

Through the program, I had the opportunity to get experience living in a foreign culture and learning about global standards. I learned English in class and in daily life with my host family. Moreover, I enjoyed special lectures and field trips. On one of these occasions, Japanese presenters, people who had succeeded in business in Silicon Valley, gave the lecture. I was able to visit top-ranked companies in Silicon Valley and I came to understand the importance of global standards if I want to work in a place like Silicon Valley.

During the SVEP program, I met many different people and was inspired by their thoughts and ideas. When I talked with my host family, friends, and program staff, I became aware of new things that now occupy space in my mind. I plan to incorporate these new thoughts and concepts into my own thinking so I can innovate and be creative in the future.

About SVEP

2nd grade, Department of Medicine, School of Medicine
Hitoshi Hayashida

The English used by native speakers is different from the English I studied in preparation for the entrance examination. Because I wanted to learn more English,

I decided to participate in the SVEP program. I found that through the program I not only learned a lot of English, but many other things too.

First, I want to talk about the English program. During SVEP, I initially took lessons at the Gateways building. Although I learned many things there, I felt it was important for me to get out and communicate with native speakers away from the building; for example, in restaurants and with my host family. I could communicate in English by combining simple words with body language but I found it difficult to speak fluently with native speakers. I worked to improve my English skills by talking to SJSU students and my host mother. I could improve my skills by remaining among English speakers for several months, like in the program. It was a very good experience for me to participate in SVEP.

Second, I took a field trip that broadened my point of view. I went to Silicon Valley in the state of California to visit an engineering company. I learned how the founders of the company succeeded in important areas, such as winning competitions. I could learn many useful things from people working in fields other than my own and apply these to my own field. Students from various faculties at Kyushu University took part in SVEP. It was important for me to talk to them about future plans and ideas during the month.

It was a great experience to participate in the SVEP program. I grew as a person during the summer and I will apply this experience to future endeavors.

-Presentations-

What do you think about risks? Positive or negative?

1st grade, Department of Medicine, School of Medicine
Hiroki Ochiai

Hello, my name is Hiroki Ochiai. I have a question for you. What do you think about risks? Are they positive or negative?

I guess most Japanese would say risks are “negative” because Japanese people tend to look for stability of life. However, I want you to take a risk, experience a failure, and see it all in a positive perspective.

So, today, I would like to talk about risks. This presentation can be divided into two sections. First, I will talk about the significance of risk. Then I will talk about my own experience and finally, offer conclusions.

There is one big advantage in taking a risk. It is that you could get a high return if it succeeds. You have to risk failure if you want to be successful in life. For example, without taking risks, you cannot get a promotion, start up a company, or develop an innovation. However, common Japanese thinking says that if you fail, it will result in great damage to yourself and your family, which is why they tend to avoid risks.

However, people in America are much less afraid of failing. For example, during the SVEP field trip, a worker at Triple Ring said “failure does not exist, because that is useful data for next time.” He considers failure to be a positive thing. I think this perspective is one of the reasons America continues to develop so many innovations.

Here is the next thing to consider. I want to look at a mistake as a positive thing because I think people can overcome anything if need be. Let me share my experience. Look at this picture (see slide). These are the results of my Kyushu University entrance exam. There are two tests for admission to Kyushu University. I was told by my teachers many times that, if you want to pass the entrance exam, you should get more than 810 in the Center test, which is an important exam for University admission. However, my score on the test was 723, which means I almost failed the entrance examination. Now, I wanted to enter Kyushu University very much, so after that low test score I studied very hard, and one month later I took the second part of the examination and passed it.

From this personal experience, I want to say that you can survive any failure, even if you feel as though you are backed into a corner. I visited many companies

in San Jose, California, and I see that risk as well as success motivates people. I am sure that everybody has great potential that can be explored through the use of risk.

In conclusion, you should not be afraid of taking risks and experiencing failure.

Failure is useful data for the next time you start an endeavor. If you suffered a failure of your own making, you can overcome it and move on. I hope that Japanese people will increasingly think of failure as something positive.

How to decide a Baby' s name

1st grade, Department of Medicine, School of Medicine
Nasa Machimoto

Hello, everyone. My name is Nasa Machimoto. I have a question for you. What do you think about my name?

Thank you for answering my question. I like my name because it is unusual in both Japan and America and everyone remembers it easily. My mother gave me my name and there were reasons she picked it for me. First, as you might guess, I am named after NASA, the National Aeronautics and Space Administration in America. When I was born, my mother wanted me to be an astronaut so she chose the name Nasa. Second, the kanji of my name is this (see slide). My mother chose this kanji because it looks feminine and the number of strokes is good fortune. Thus, there were specific reasons for the name I received as a child; likewise, every child' s name has a reason behind it.

Today, I want to talk about "how to decide a baby' s name." After coming to America, I encountered many Americans and I became interested in their names. First, I will compare naming of children in Japan and America. Then I will explain some of the features of Japanese and American names. Finally, I will discuss my own thoughts on this theme.

To collect information about American names, I asked my host mother about how she decided on her children' s names. There are three children in her family—Geoffrey, Aaron, and Alexis. Geoffrey' s full name is Geoffrey Hans Vander Veen. His initials are GHVV. Hans means "God' s gift" in Dutch; Geoffrey is named after his grandfather, who had the same name. Aaron' s full name is Aaron Robert Vander Veen. The name "Aaron" is from the Old Testament of the Bible, and "Robert" is after his other grandfather. Alexis' full name is Alexis Elena Janae Vander

Veen. Her mother chose the name “Alexis” because it sounded feminine; the names Elena and Janae are after her two grandmothers.

In addition to my host family, I asked other Americans about the reasons for the names they received. From my information about American names and my experience in Japan with Japanese names, I would like to discuss the similarities and differences between the naming of children in America and Japan. First, in both Japanese and American names, sound, appearance, and current popularity are important determinants. Some children are named after relatives, usually parents or grandparents. I think more Americans name their children after parents or grandparents than Japanese. Next is the meaning of names. In general, Japanese care more about the meaning of names than Americans. Many Japanese care about good fortune so they give their children names that are supposed to bring good fortune. Many Americans are Christians and name their children after important people in the Christian Bible. So, why are these differences present? I’d like to explain a bit more for you to think about.

The Japanese language has three kinds of characters, kanji, hiragana, and katakana. These can be used in various ways to create names in Japanese. In addition, kanji shows meaning visually, so Japanese tend to care more about the meaning of names. For example, if you name your baby “Misaki,” you can write it in kanji, hiragana, or katakana. Here is one example of kanji (see slide). This kanji means “beauty” while the other means “bloom.” Also, many Japanese believe that the number of strokes used in writing a name can give good fortune. This is a common custom in Japan.

In contrast, American names are written using only one alphabet. Americans typically have a middle name but the use of initials is common for middle names. The Bible is an important source of names for children in America. Popular American names taken from the Bible are: Mary, Joseph, Peter, Paul, John, James, Sarah, Thomas, Samuel, etc. You have probably heard many of these names in America.

While thinking about the ways baby’s names are decided in Japan and America, I was surprised by two things. First, I noted the ongoing use of names from the Bible for children in America. Second, Americans don’t think about “good fortune” in connection with the naming of children, whereas this is important to people in Japan. Thinking about the ways people in the two cultures decide names for their children helps me to understand the differences in culture and thought between Japan and America. In the end, I found that both Japanese and American parents name their children based on many considerations.

Thank you for listening to my presentation.

Differences of constitution

1st grade, Department of Medicine, School of Medicine

Ryo Yamanaka

Hello everyone. My name is Ryo Yamanaka. Look at these pictures. They are both beautiful women, aren't they? In truth, the women look different because one is Japanese and the other is American. And, it is not only their looks that are different, the way they are dressed and the way each picture is composed is different.

There are many physical and cultural differences between Japanese and Americans. But, today I want to talk about a difference I observed while I was participating in the SVEP program in America. The question I am focused on is, "Why are the Japanese more sensitive to the cold than the Americans?" The reason I chose this topic is that I was very surprised to see Americans wearing t-shirts and shorts when the weather is cold. I suggest that there are four reasons for Americans being resistant to the cold.

The first reason is experience. Americans are accustomed to the cold because they have worn t-shirts and shorts. So, they are exposed to cold since they are young.

The second reason is overweight. Look at this chart (see slide). It shows the percentage of overweight people in each country. As you can see, there are more overweight people in America than in Japan. Fat is good for insulating the body from cold. Because Americans have more body fat than Japanese they are more resistant to the cold. According to the data, average BMI of Americans is higher than that of Japanese. However, why are there so many overweight people in America? The reason is caloric intake. Look at this figure (see slide). Americans take in many more calories than Japanese. Therefore, people in America tend to be overweight.

The third reason is muscle mass. Generally speaking, Americans have more muscle mass than Japanese. Muscles produce heat, so the more muscles you have, the more heat your body produces. However, why do Americans have more muscle mass? The answers are a combination of inheritance (genes), diet, and training.

The last reason I am suggesting for why Japanese are more sensitive to cold than Americans is, I think, the most important. It is body temperature. Look at

this chart (see slide). Surprisingly, there are differences in body temperature between Japanese and Americans. The body temperature of the Americans, which average is 37°C, is higher than that of Japanese. What is causing this difference? Body temperature is related to blood flow. Let me explain. First, the specific gravity of American blood is higher than that of Japanese. This means that the density of American blood is greater than that of Japanese. Having high blood density means that there is a higher proportion of red blood cells in American blood. Because red blood cells have a role in moving heat around the body, the more red blood cells you have, the more heat is produced. As a result, the body temperature of Americans is higher than that of Japanese.

In conclusion, differences in the constitutions of Japanese and Americans shows that Japanese tend to be more sensitive to cold than Americans.

Thank you for listening to my presentation.

The healthiest way to eat vegetables

2nd grade, Department of Medicine, School of Medicine
Takeshi Kubota

What is the difference between American and Japanese food styles? American style has larger portions and contains more sugar; Japanese style is healthier and more beautiful... That's OK, but the biggest difference between the two food styles is the way vegetables are eaten.

Hello, I'm Takeshi Kubota. I want to talk about the healthiest way to eat vegetables. One day in America, my host mother said that Americans don't cook vegetables; they eat them raw, for example in a salad or a sandwich. Of course, Japanese usually cook their vegetables; so, I wondered whether cooked or raw vegetables are healthier for the human body.

First, the volume of vegetables consumed is different depending on whether they are cooked or raw. We can eat more vegetables when they are cooked because they are composed mainly of water.

Second, cooked vegetables are less nutritious because some nutrients are destroyed by heat during the cooking process. On the other hand, although raw vegetables be more nutritious, it may be difficult for our bodies to absorb all of the nutrients. Thus, there are pros and cons to both ways of eating vegetables.

Let me suggest another style for eating vegetables: Tsukemono (Japanese pickles). This is a traditional Japanese food that can be kept for a long time.

First, Tsukemono contains little water so it provides enough food volume. The vegetables in Tsukemono have been treated with salt and spices, which draw out much of the water. If we do not want the additional salt when we eat these vegetables, the salt can be removed by washing. However, in general, the taste of Tsukemono is salty.

Second, almost all the nutrition remains in Tsukemono because no heat is applied during preparation. Also, vitamins and minerals are added during the process of adding the spices and rice bran. For example, it was found that during the pickling process, lactic acid bacteria are present because of the addition of fermented foods such as soy sauce. Lactic acid bacteria help digestion by breaking down dietary fiber.

Finally, there are many different types of Tsukemono in Japan. Each region has its own characteristic version, and Japanese people are always inventing new ways to make (and try to improve) Tsukemono. We never get tired of Tsukemono; the tastes and colors stimulate the appetite.

To sum up, Tsukemono gives us a well-balanced diet and we don't need to eat a lot of it. Moreover, we enjoy meals that include Tsukemono. Let's spread the word about this traditional Japanese health food, Tsukemono, around the world.

Clothes

2nd grade, Department of Medicine, School of Medicine
Hitoshi Hayashida

Hello, I'm here to talk about clothes. Do you like going shopping? I do. When I have free time in Fukuoka, I go shopping in Tenjin and Hakata. During my stay in the United States, I went to the Mall of America and the Valleyfair amusement park in the state of Minnesota. I observed many interesting differences between Japanese clothes and American clothes.

Look at this picture comparing Japanese and American t-shirts. Both are relatively small in size but the Japanese shirt is short in length and wide in the shoulders, while the American shirt is long in length and narrow in the shoulders. The "medium" Japanese shirt is designed to fit a person 165 cm to 175 cm tall, whereas the American shirt is designed to fit a person 173 cm to 180 cm tall. I wondered about the reasons for these clothing differences.

Two possible reasons occurred to me: differences in average height and differences in the human skeleton. First, I looked at the average height of the

two populations. Japanese average height is about 170 cm . Here is a picture of a famous Japanese person, Toshinobu Kubota, who is 170 cm tall. He is a famous singer and has appeared on TV not only in Japan but also in the United States. American average height is about 175 cm. Here is a picture of another famous person, Kiefer Sutherland, who is 175 cm tall. He played the part of Jack Bauer in the TV series “24.”

Next, I looked at skeletal differences between Japanese and Americans. Because the size of the average skeleton depends to a considerable degree on the size of our ancestor’ s skeletons, I focused on the size of Japanese and American ancestors. Japanese ancestors are a mix of Chinese and Korean parentage. However, judging from DNA data and lifestyle patterns, most Japanese are related to Korean ancestors. The ancestors of Americans, however, are from many countries because of the various waves of immigrants going to America. Originally, the ancestors of most Americans came from Europe, but many were also from Latin America, Africa, and Asia.

Now, I would like to discuss why Japanese ancestors tend to be smaller than the ancestors of Caucasian Americans in the United States. While differences in human size are mainly caused by genetic differences, some conclusions have been drawn about other factors that contribute to physical characteristics such as size. I will introduce you to Bergmann’ s Rule, which states that body mass increases in cold climates. Japanese use the term, “koondobutu,” to refer to increased body size in colder environments. According to Bergmann’ s Rule, people in colder regions should be large in order to maintain body temperature. “Homeothermy” is the term describing the regulatory process in mammals that maintains a stable internal body temperature regardless of external conditions.

It was colder in Europe than in Japan, so the ancestors of Americans were bigger than the ancestors of the Japanese. According to this theory, I think the reason I am small is that I have been living in a warmer climate. If I had lived in northern Europe, I would be tall enough to “hit my head on the ceiling.” There is an opposing theory about the determinants of human body size that states that resource availability (particularly food resources) has an influence on Bergmann’ s Rule. Overall, the causes of differences in body size are not clear.

To sum up, the differences I found between American and Japanese t-shirts appear to be caused by differences in average height and average skeletal size. However, a mix of other factors may contribute to differences in body size between Japanese and Americans; these include: genetics, climate, and food resources.

Thank you for listening to my presentation.

**WHAT DO YOU THINK ABOUT RISKS
POSITIVE OR NEGATIVE?**

TAKE A RISK !

~FOOD JAPANESE YOUTH LIKE ME~
HIRORI OCHIAI

AGENDA

- 1 SIGNIFICANCE OF RISKS
- 2 MY EXPERIENCE
- 3 CONCLUSION



1 THE SIGNIFICANCE OF RISKS

High return



1 THE SIGNIFICANCE OF RISKS

- FAILURE DOES NOT EXIST, BECAUSE THAT IS USEFUL DATA FOR YOUR NEXT TIME

3 CONCLUSION



**NOTHING VENTURED,
NOTHING GAINED**

2 MY EXPERIENCE



Nasa Machimoto

- > NASA ... astronaut
- > Kanji ... 菜穂
 - looks feminine
 - the number of strokes is good fortune



How to decide a Baby's name



content

1. Comparison
2. Japanese name
3. American name
4. My thoughts



The names of my host brothers and sister

Geoffrey Hans VanderVeen → GHVV

- > Means God's gift (in Dutch)
 - > After his grand father
- Aaron Robert VanderVeen
- > From the Bible
 - > After his grand father

Alexis Elena Janae VanderVeen

- > Sound feminine
- > After her grand mothers



The points to be considered

Japanese way

- Sound
- Look
- up-to-date
- After name of parents or grand parents
- Meaning
- Fortune

American way

- Sound
- Look
- up-to-date
- After name of parents or grand parents
- Meaning
- From the Bible



Japanese names

- ◆ Kanji, hiragana, katakana... three kinds of letters
 - More various names
 - Kanji can show meaning visually
 - care about meaning
- Misaki
美咲 みさき ミサキ
美 beauty 咲 bloom
- ◆ Fortune
 - The number of strokes can give good fortune

American names

- ◆ Only alphabet
- ◆ Middle name
- ◆ Initial
- ◆ From the Bible
- Popular names in America
 - Mary, Peter, Andrew, James, Sarah, John, Tommy, Sam, ...

My thoughts

- The relation between names and the Bible
 - American people don't care about fortune
- Both in Japan and in America, parents name their baby considering many things!

Thank you for listening!



Differences of constitution

Ryo Yamanaka

Today's Topics

Why are the Japanese more sensitive to the cold than the Americans?

Reason①: Experience

Reason②: Overweight

Rate of overweight people

Japanese	3.6%
American	36.2%

Why? →

Intake of calorie

Japanese: 2761kcal American: 3774kcal

Reason③: Muscle mass

American > Japanese

Why? →

- Inheritance
- Diet
- Training

Reason④: Body temperature

Japanese	36.6±0.3°C
American	37.0±0.3°C

Why? →

Specific gravity of blood: American > Japanese
 = Density of blood: American > Japanese

Amount of red blood corpuscle: American > Japanese
 Productivity of heat: American > Japanese

Body temperature: American > Japanese

Conclusion

Constitution is unique to race →

We have to respect each race!!

Thank you for listening!

The healthiest way to eat vegetables

Takeshi KUBOTA

American style



Japanese style



vegetable

- Volume
- Nutrition

vegetables

	raw	cooked
volume	a little	much
nutrition	much	a little
• to absorb	• difficult	• easy

Tsukemono

- Volume
- Nutrition
- Kinds



Tsukemono



Clothes

Hitoshi Hayashida

The differences in clothes(the range of M size)

Japanese one(165~175cm)



American one(173~180cm)



2 reasons

- Average height
- The differences of a skeleton

2 reasons

- Average height
- The differences of a skeleton

Average height

Japanese
about 170cm



American
about 175cm



2 reasons

- Average height
- The differences of a skeleton

Japanese ancestor



American white ancestor



The law made by Bergmann

- Regarding a homoiotherm, Japanese say Koondoubutu
- The colder it is, the bigger the size of body become

hot region



cold region



To sum up...

- **The differences in clothes are caused by a few factors**
 - Average height
 - The differences of skeleton
- **The cause of the differences in body is not clear...**
 - gene?
 - Climate?

シリコンバレー英語研修プログラム

基礎放射線医学分野
續 輝久 (特別会員)

はじめに

平成19年度にモントレイ国際学院Monterey Institute of International Studiesでの語学研修として始まった「九大生のためのビジネス英語&理工系英語サマースクール」に、平成20年度から医学部の学生が参加するようになり、平成21年度には研修場所を九州大学の交流協定締結校であるサンノゼ州立大学San Jose State Universityに移し、名称も新たに「シリコンバレー英語研修プログラム(SVEP)」となった。サンノゼ州立大学は1857年にカリフォルニア師範学校として設立された伝統校であり、世界の技術の最先端を行くシリコンバレーという恵まれた環境を活かし、シリコンバレーに集結する多くのベンチャー企業等に優秀な人材を供給している優れた大学である。

SVEPとして再スタートして5年目にあたる平成25年度は、医学科は1年生2名、2年生3名、また保健学科は3年生と4年生が各1名の合計7名が医学部から参加した。学習内容はチュートリアル方式を取り入れた実務英語の学習であり、研修は夏休みを利用して、4週間に渡って実施された。例年通り参加した学生達による「報告書」を作成中であるが、今年度からは英文による感想文については留学生・国際交流を担当されている高橋富美先生にお世話いただくことになった。この研修を通しての感想文(日本語)を寄せてきた6名の分を「報告書」に先だて「学士鍋」に寄稿することになった。医学部同窓会にはこれまで継続的に財政的な支援をいただいていた。感謝の意を表すると共に、学生達の活動の報告とさせていただきたい。

最後に、九州大学カリフォルニアオフィスの松尾所長、アドバイザーの皆さん、国際交流部の方々、医学学生係職員の方、また、今回の米国でのホストファミリーに厚く感謝申し上げます。



集合写真 (到着時)

留学全体を通して

医学科1年 溝口堯仁

この留学に参加した理由はまず英語力の向上のためでした。実際に海外に行ってみて、英語に囲まれた生活を送り、英語を話さなければならぬ状況に身をおく事で、英語を話す事に抵抗が無くなるのではないかと思ったからです。

実際にSVEPに参加して得られたものは、英語力だけではありませんでした。それは、SVEPの参加者の九大生、ホストファミリー、授業を担当して下さった先生方、そして現地の友達といった、様々な人たちとの出会いです。SVEPには、九州大学の色々な学部、また異なる学年の学生が参加しています。同じ九大生でありながら、他学部や他学年の学生との交流がほとんどない私にとって、大変新鮮でとても刺激的でした。さらに、意識の高い学生が集まっているので、自分の学生生活や将来について考える絶好のきっかけとなりました。また、現地の先生方の授業を通して、現在の日本の世界における立ち位置や、それを知った上で世界に通用する人間になる為に学生のうちにすべき事を知ることが出来ました。現地の友達やホストファミリーとは、帰国後も連絡を取り合っているため、今でも継続して生の英語に触れることが出来、英語力向上に大変「+」になっています。

平日の英語の授業も参加している学生の英語



ヨセミテにて (医学科の5人)

の能力に応じて分けられていて、日本の授業形態とは全く異なり、積極的に発言を求められる授業なので、英語を鍛えるのには効果的な方式だと思いました。フィールドトリップでは、実際に現地の企業を見学し、手術支援ロボットのダ・ヴィンチを操作するといった滅多にない経験をさせてもらう事が出来ました。このような経験を通して、自分の将来を考え直す契機となり大変良かったです。

SVEPを通して、単に海外旅行をするだけでは得られない貴重な経験をすることが出来ました。これらの経験を自分の将来設計に必ず生かしていきたいと思います。

留学を通して

医学科1年 山本卓司

今回アメリカでの研修に参加したことで、自分の能力を伸ばすことができた実感する出来事が多々あったように思う。異国の地で、異国の文化の中で、そして異国の言語に揉まれ削られ圧倒された一ヶ月間であった。特に痛感させられたことは、やはり英語を話す能力の重要性である。現在の日本の英語教育では、中学・高校を通して、読む、書く英語というものが重要視されており、なかなか英語を話す機会がないというのが実状である。自分としても、中学・高校の6年間、しっかり英語は勉強してきたつもりではあったのだが、実際に現地に着き、ホストファミリーといざ会話を始めようとする、悔しいことに言葉がほとんど出てこなかった。自分自身の英会話能力の低さを痛感させられた瞬間であった。しかし、日々英語にどっぷり浸かり日頃も英語を話すにつれて、不思議なことに英語を話す能力というものは自然と向上するものである。アメリカ滞在の3週間目ないし4週間目になると、英語を聞き取る力だけではなく、以前より格段に自分の話す能力が向上しているということを実感することができた。普段日本では何から何まで英語で話すという機

会は減多にない。そんな中でこの研修は、自分の英語を話すという能力を向上させる面で大変大きな役割を果たした。勿論英語力以外にもフィールドトリップでシリコンバレーに点在する企業を訪問し、企業家精神やイノベーション理念など様々なことを学んだことは言うまでもない。留学と聞くと、やはり最初は誰しも少し戸惑うことがあるだろう。しかし、行かずに後悔するよりも、行って後悔してほしい。私は今回の研修で後悔したことは一つもない。学んだことを生かし、次につなげていこうと思える、とても有意義な研修であった。友人達にも是非薦めたい研修プログラムであると思う。

語学研修プログラムSVEPを振り返って

医学科2年 才木智尋

二年生の夏休みを利用して、米国カリフォルニアでの語学研修プログラム「SVEP」に参加しました。「英語で流暢に会話できるようになる」ということを一番の目標としていたのですが、それ以外にも様々なことを学び取ることができ、実りある時間となりました。この場をお借りして、現地での私の経験について述べたいと思います。

英語力の向上という目標については、一か月間の留学を経てある程度達成できたのではないかと思います。留学先のサンノゼ州立大学には、語学学習に特化したクラスもあったのです



ファイナルプレゼンの様子

が、私にとってはそれ以上に、実生活での「活きた英語」に触れることが役に立ちました。ホストファミリーだけでなく中国人留学生のルームメイトとも英語で会話し、意識的にいわば「英語漬け」の環境に身を置いていた効果が大きかったようです。

また、慣れない異国の地で一か月を過ごすにあたり、大きな支えとなったのがホストマザーのAmeliaとホストファザーのDavidの存在でした。生活面でのサポートに加え、時には観光や外食に連れて行ってくださることもありました。夕食時に皆で囲む食卓には笑顔がいっぱいで、心和む楽しいひと時でした。実の娘のように温かく私に接してくれた二人とは、今でも連絡を取り合っています。

留学期間中には、HPやAdobeに代表されるようなシリコンバレーの企業などを訪ねて見聞を広める機会が多く設けられており、それまで知らなかった世界にも目を向けることができました。また、同じ九州大学の学生でも他学部の学生と関わる機会が私にはあまりなかったため、一緒にプログラムに参加した仲間との会話から得るものも大きかったです。

一か月間の経験を通して、「英語ができる」ことは最終目的ではなく、「英語をどのように活かすか」が大切なのだという考えに至りました。日本でのこれからの学生生活でもしっかり学び、今回の留学経験を踏まえていずれは医学留学も視野に入れられればと考えています。

留学全体を通して

医学科2年 北 拓海

今回SVEPに参加した目的は、英語に対する恐怖心を取り除くこと、英会話力を上げること、そしてアメリカで現地の生活を体験することでした。1ヵ月間、日本と異なる環境で過ごすことで、何か自分のなかで変化が起きるのではないかと期待していました。

高校時代の修学旅行でニュージーランドに10



LAのディズニーランドにて

日間ほどホームステイしたことがありましたが、当時はほとんど意思疎通ができなかったため、英語圏での生活に対して大きな恐怖心を抱いたまま帰国していました。だから今回は積極的に会話し、簡単なやり取りでいいからテンポよく、コミュニケーションに参加する数をこなすことを心掛けました。ホストファミリーは非常に親切で、私たちが詰まりながら話しても辛抱強く聞いてくださり、また毎日の生活でも、例えば店でスタッフに質問するときに傍に付いていてくれる等、様々なサポートをしてくださったおかげで、英語に対する恐怖心は次第に無くなっていきました。

英語力をあげるという目的は残念ながら達成できませんでしたが、でも確かに英語独特のリズムや発音などに慣れて聞き取りやすくなったという部分があります。しかし同年代の人と何気ない会話をしようとしてみると、その難しさを改めて痛感し、現実を知りました。本当に英会話力をあげたいのなら、現地で同年代の友人と様々な会話を重ねることが必須であり、1ヵ月程度の短い留学ではなかなか厳しいです。彼らとスムーズにコミュニケーションを取れるように英会話力を磨きたいと思うようになりました。

私はアメリカに非常に憧れを抱いていました。今回一緒だった多くのSVEP参加者がこの国での大学院入学や就職を視野に入れていたのに対して、本当に漠然とした理由でアメリカを



ホストファミリーと

選んだのですが、そのおかげで一つ一つの経験を楽しむことができたと思います。実際に生活することで、生活スタイル、物事の考え方、地域での付き合い方、街の利便性などを日本と比較することができました。同時に「日本人」として自国のことに関する知識をもっと身に付けておくべきだということにも気付きました。

SVEPでは様々な学部から、志の高い人が多く集まっていたため、非常に良い刺激を受けました。とても濃い1ヵ月で、毎日が楽しかったです。この経験をこれからの人生に活かしていきたいです。

留学全体を振り返って

医学科2年 山本卓也

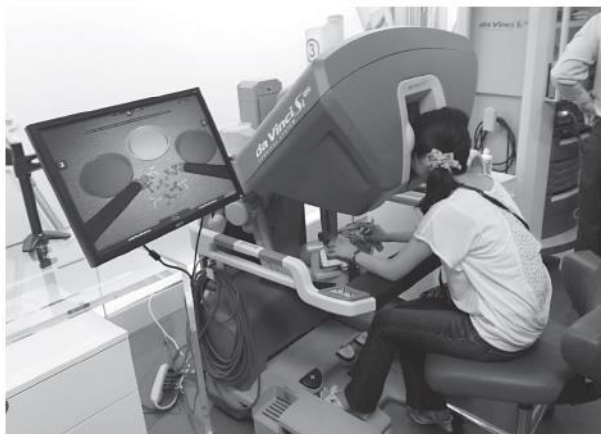
僕がSVEPに参加した最大の理由は語学力の向上のためでした。単に語学力の向上のためなら他の留学も考えられますが、数ある中でSVEPを選択した理由は、僕が海外の企業に興味があったからです。サンノゼには有名で世界で勝負をしている実力企業が沢山あるのを知っており、SVEPの中にはそれらの企業を訪問するフィールドトリップのプログラムが含まれていたからです。もう一つSVEPを選択した理由は、大学の国際交流部とカリフォルニア・オフィスが連携して窓口となるため、留学の手続きが複雑でなかったからです。その他にも多くのことを考慮しSVEPを選択しました。

実際にアメリカに赴いて生活をするにあた

り、僕は様々なことを考えました。日本で生活している時に、「日本は……。」という言葉をよく聞きますが、僕は(まあ、確かに…)と思うだけでそれ以上のことは考えません。しかしながら、アメリカにおいて他の誰かに「日本は……。」と言われると、その感触は大いに変化します。この場合の「日本」という表現は僕のことを指していることが多く、内容が否定的であれば、結局は僕が非難されているのであり、その表現が肯定的な内容ならば、僕が肯定されていると気づきました。この感触が僕を非常に動機付け、日本のこと、アメリカのこと、世界のことをもっと知る必要性を感じました。そして一体何が良くて、何が自分の足を引っ張るのかを正確に知る必要があると痛感しました。

肝心の語学力に関してですが、このSVEPを通して英語を自然と話せるようになりました。しかし、1ヶ月では流暢に話せるまでには未だ不十分でした。原因としてはまず期間が短すぎる。そして、周囲に居る九大からの参加者と、日本語を使う機会が多すぎることです。純粋な語学留学が目的ならばSVEPは推奨できません。他の留学を選択する方が明らかに賢明です。しかし、SVEPには語学以外の要素が多く、自分としてはお勧めです。

僕が接したサンノゼに暮らす人々の考え方にに関してですが、極めて合理的で実利主義に徹しているように感じました。なかなかいい考え方だと思います。その良さを自分も取り入れてい



手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」の操作体験

きたいと思いました。

最後に全体をまとめて振り返ると、この留学は参加してよかったです。貴重な経験を得て、僕は多いに成長することができました。自分の考え方が変化していることを今も実感しています。また、この留学でできた日本の友達、海外の友達は一生ものだと感じています。

留学全体を通して

保健学科3年 三賀山 諒司

私がSVEPに参加した理由は、まだ自分が知らない世界を知って、世界観を広げたいと思ったからです。友人が昨年のSVEPに参加しており、様々な体験を聞くことができたこともあって、私も参加しようと思いました。私は英語が特別得意ということもなく、最初は本当に30日間生活できるかどうか不安でした。しかし、その不安はすぐに払拭されました。

SVEPに参加している間は、クラスルームで受ける英語の授業、Field Trip、ホームステイの大きく3つの学習の場がありました。まず、英語の授業では能力別の3つのクラスに分かれてそれぞれのレベルにあった授業が行われました。発音やリスニング、会話など基礎的な項目から、最終課題のプレゼンテーションの練習まで幅広く学べます。Field Tripでは様々な企業を訪問しました。サンノゼはシリコンバレーと呼ばれるように、多くのベンチャービジネスの会社が集まっています。YahooやAdobe、Appleといった、現代を代表するインターネット関連の大手の企業がたくさんあります。そこで講演を聞いたり、職員の方と会話したりすることはとても刺激的でした。またスタンフォード大学にも訪問する機会があり、九州大学との大きな違いを肌で感じることができました。スタンフォード大学は建物の様式が統一されており緑と調和していました。まるで観光地のような場所だと私は感じました。現に、一般の方も学内にいるのを見かけました。これは九州大学

● 学生 の ページ

ではめったに見られない光景であり私は驚きました。ホームステイでは暇な時間を与えてくれませんでした。ホストファミリーがアウトドア派ということもあり、放課後や休日、授業がないほとんどの時間にアステティックジムや山、海など様々な場所に連れて行ってくれました。ホストファミリーとの会話はもちろん英語しか使えないため、私にとってホームステイとは生きた英語に触れる場であり、最も好きな時間でした。

また多くの出会いがありました。ホストファミリーとの出会い、サンノゼ州立大学の学生との出会い、SVEPの参加メンバーとの出会い等、すべてが私にとって宝物です。ホストマザーのReylenは毎日おいしい食事をつくってくれ、またアメリカの文化についても教えてくれ

ました。サンノゼで知り合った友達とは趣味を分かち合うことができました。SVEPの参加メンバーは私に刺激を与えてくれました。当初はただ世界観を広げたい、海外に行きたいと思っていましたが、様々な人と触れ合うことで、私自身日々の生活を通してより積極的になり、結果としてSVEP全体をより有意義に過ごすことができたと感じています。

私はSVEPに参加し、意識が変わりました。自分の殻を破り飛び出すことが大切だと分かりました。これから先の人生でSVEPに参加した経験を生かしていきたいです。そして、今後も多くの学生がSVEPに参加し、貴重な体験をしてほしいです。



集合写真 (帰国前)

英文原稿を通じて

平成25年度より、英語による感想文などの校閲・編集に関わらせていただいています。それらの英文原稿を通じて、米国で生活することになった学生達の期待感や緊張感が感じられます。また、4週間という短期間ではありますが、そこで得た何物にも代えがたい経験などが行間から読み取ることができ、楽しく作業させていただいています。低学年のうちに海外での研修を行ったことは、参加学生の視野を広げる、またとない機会となったことと思われま

す。この価値あるプログラムを行うにあたってご協力いただいている、サンノゼ州立大学や各企業の皆様、カリフォルニアオフィス松尾所長など関係の皆様、そして、本プログラムのスタート時からご尽力いただいている續 輝久教授、継続的に財政的な支援をいただいている医学部同窓会に深く感謝いたします。

国際医科学教育ユニット
高橋 富美

あとがき

平成19年度にモントレイ国際学院 Monterey Institute of International Studiesでの語学研修として始まった「九大生のためのビジネス英語&理工系英語サマースクール」に、平成20年度から医学部の学生が参加するようになり、平成21年度には研修場所を九州大学の交流協定締結校であるサンノゼ州立大学 San Jose State Universityに移し、呼び名も新たに「シリコンバレー英語研修プログラム (SVEP)」となった。サンノゼ州立大学は1857年にカリフォルニア師範学校として設立された伝統校であり、世界の技術の最先端を行くシリコンバレーという恵まれた環境を活かし、シリコンバレーに集結する多くのベンチャー企業等に優秀な人材を供給している優れた大学である。

SVEPとして再スタートして6年目にあたる平成26年度は、医学科の1年生3名、2年生2名の合計5名が医学部から参加した。学習内容はチュートリアル方式を取り入れた実務英語の学習であり、授業期間は夏休みを利用して、平成26(2014)年8月25日(月)～9月19日(金)の4週間に渡って実施された。例年通り参加した5名の学生全員による「報告書」としてまとめた。

留学全体の感想については、平成26年11月14日付で2年生2名の原稿を医学部のウェブサイトで紹介しているのでご参照いただきたい。なお英文による感想文等は、高橋富美先生のお世話で校閲・編集された。

お世話になった九州大学カリフォルニアオフィスの松尾所長やアドバイザーの皆様、国際交流部並びに医学学生係職員の方、また、継続的に財政的な支援をいただいている医学部同窓会に感謝申し上げます。

基礎放射線医学分野

續 輝久



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY